

## ～ 日独 ジョイント レクチャー～

「明治時代、日本語は西洋文学をどのように受け容れてきたか：  
„Max und Moritz“とローマ字訳『Wampaku monogatari』を例に」

(ハイデルベルク大学東アジア研究センター日本学科 ユディット アロカイ 教授)

今般、ハイデルベルク大学東アジア研究センター日本学科のユディット アロカイ教授をドイツから迎え、下記のとおりレクチャーを開催します。

明治時代初期から日本は西洋の文学を活発に受け容れ始めました。いわゆる標準語や近代の文体が定着する以前、また日本語表記の改良運動が起こる時代で、様々な翻訳・翻案のスタイルが現れ、その中で翻訳者は驚くようなストラテジー、表記方法を選ぶこともありました。

そのひとつの例としてドイツの文学者、ヴィルヘルム ブッシュ作の二人のいたずらっ子のお話が挙げられます。西洋の子供や若者の間でよく知られている『Max und Moritz』（1865）という絵本は早い時点で（1887・88年）日本語に訳されています。リズムの整った文語体に訳されていますが、一番の特徴は日本語のローマ字表記でした。

アロカイ教授は、長年、日本文学を研究されていますが、今回のレクチャーでは、翻訳文学を専門にしている京都大学人文科学研究所のイリナ ホルカ講師を解説者に迎え、現代にも通じる日本における異文化受容を明治時代の翻訳文学から探っていきたいと思います。

どなたでもご参加いただけますので、多くの皆さまの来場をお待ちしています。なお、レクチャーは日本語で行われます。

### 記

日 時：2016年12月20日（火）18：15～19：45（受付18：00～）

会 場：京都大学吉田国際交流会館南講義室 2（吉田南構内）

京都市左京区吉田二本松町64番地

### スケジュール

18：15 開会挨拶

京都大学人文科学研究所長  
教授 井波陵一

18：20 レクチャー

ハイデルベルク大学東アジア研究センター日本学科

教授 ユディット アロカイ

「明治時代、日本はどのように西洋文学を受け容れたか：„Max und Moritz“とローマ字訳『Wampaku monogatari』を例に」

19 : 00 解説

京都大学人文科学研究所

講師 イリナ ホルカ

19 : 20 質疑応答、ディスカッション

京都大学人文科学研究所

講師 イリナ ホルカ

19: 40 閉会挨拶

京都大学文学研究科長

教授 平田昌司

19 : 45 レセプション（於：ハイデルベルク大学京都オフィス）

20 : 30 閉会

司会進行: サビーネ シェンク（ハイデルベルク大学京都オフィス） / 神野智世子（京都大学学術研究支援室）

(\*) 日独 ジョイント レクチャーは、相互にオフィスを持つハイデルベルク大学と京都大学が、両大学の学術交流のさらなる深化と発展を企図して不定期に開催するものです。

参加登録は、12月16日（金）までに、氏名、所属機関をご記載の上、下記メールアドレスまで御連絡ください。

参加登録・問合せ先：

ハイデルベルク大学京都オフィス（HUOK）

Email : [info@huok.uni-heidelberg.de](mailto:info@huok.uni-heidelberg.de)

Tel : 075-753-5413

## 講師プロフィール

### ユディット アロカイ 教授：

ユディット アロカイ (Judit Árokay)。ブダペスト ELTE 大学とハンブルク大学で日本、ドイツ、英文学・文化を専攻し、修士号を取得した後、ハンブルク大学で博士号を取得。1998年から2004年までハンブルク大学日本学科助教授、2004年からベルリン自由大学助教授、2007年からハイデルベルク大学日本学科教授。専門は日本古典文学・文学理論、主な研究分野は中世から江戸後期に至る歌論・歌学。著作は平安女流歌人の中世歌論における受容や江戸後期の和歌革新と和歌の近代への道や間テクスト性（インターテクスチュアリティ）、古典の修辞等。

[http://www.zo.uni-heidelberg.de/japanologie/institut/mitarbeiter/arokay\\_eng.html](http://www.zo.uni-heidelberg.de/japanologie/institut/mitarbeiter/arokay_eng.html)

### イリナ ホルカ 講師：

イリナ ホルカ (Irina Holca)。ブカレスト大学で日本語・日本文学専攻、英語・英米文学副専攻した。奈良教育大学大学院において国文学を専修し、修士課程を終え、のちに大阪大学文学研究科から博士号（文学）を取得。2010年から大阪大学特任助教、2014年から京都大学人文科学研究所専任講師。専門は日本の近代文学。自然主義、読書行為、翻訳論、メディア、帝国、ジェンダーなどを中心に研究を行っている。翻訳者としても活躍（漱石『吾輩は猫である』、森鷗外『キタ・セクスアリス』などのルーマニア語訳）。

<http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/zinbun/members/holcairina.htm>

ハイデルベルク大学京都オフィス <http://huok.uni-heidelberg.de/>

京都大学ハイデルベルクオフィス <http://www.oc.kyoto-u.ac.jp/overseas-centers/eu/about/heidelberg/>